

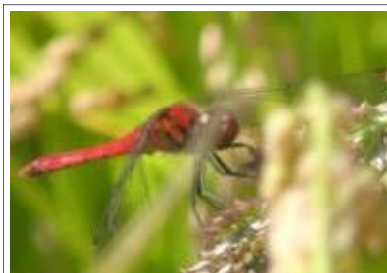


空高く秋の雲が見られましたが帰る頃にはやや汗ばむほどで、ウスバキトンボ(右)が姿を見せました。アキアカネの産卵が見られる季節になったので、田んぼのようすを見に行ったら、アキアカネに出会いました。帰りに北の空(左)を見ると、夏の名残りか、モクモクとした雲が見えました。



アキアカネの産卵

黄金色に実った田んぼにたくさんいたウスバキトンボはいなくなりアキアカネが飛んでいました。夏の間涼しい山で餌をたくさん食べて里に戻って来たのです。しばらくは、稲刈りの済んだ田んぼで、連結しながら雌の腹部先端で水面を打つようにして卵を産むようすが見られます。成熟すると腹部上面が赤くなります。



ナツアカネ 久しぶりに見たナツアカネの雄です。体全体が唐辛子のように真っ赤になります。上では草の影ですが顔も赤くなっているのが分かります。産卵はアキアカネとは違って、飛びながら卵を振り落とします。



ヒメアカネ

環境の変化に敏感と言われ数が少ないトンボです。愛知池の周りで見るのは初めてです。アキアカネより一回り小



型で雄の顔面は白くなります。



トックリバチ巣

直径15ミリくらいです。親が用意したガの幼虫などを食べて育ち、内側から穴を開けて羽化したのです。



ヤブマメ

花が終わると左のような実ができます。面白いことに、地下に潜る閉鎖花ができ1種子だけの実をつけるそうです。





ウンモンオオシロヒメシヤク
幅は40ミリの弱で、シャシヤンボの緑の葉の上にいたのでよく目立ちました。模様がぼんやりしていますが前後翅に黒い模様があります。スイカズラが幼虫の食草です。



オオシロカラカサタケ

芝生などでよく見られ、温暖化で分布を広げているようです。開くと30センチになるものもあります。強い毒があります。



ヤナギタデ

湿地の植物で田んぼの際に生えていました。柳のような葉を噛んでみたら辛味がありました。芽生えを刺し身のつまにします。



コブナグサ 湿地に生えるイネ科植物。葉の形が幅広で小さな鮎に見立てた名前。全草を煎じて布を浸すと黄色に染めることができます。



アカギカメムシ幼虫

アカメガシワの汁を吸うカメムシ幼虫です。南西諸島に生息している種ですが、この辺りでも繁殖するようになったようです。顔のような模様が見えます。成虫は未確認。



サトジガバチ

麻酔したガの幼虫を餌にしてこどもを育てます。巣穴を掘ってから獲物を探すのですが。出かける時には入り口を塞ぐそうです。

植物 メドハギ、ヒメジョオン、セイタカアワダチソウ、ノコンギク、ツユクサ、マルバツユクサ、ヒレタゴボウ、ハキダメギク、オオイスタデ、ワレモコウ終わり、ノギラン、トウカイコモウセンゴケ、オオニシキソウ、コセンダングサ、イノコヅチ、イヌホオズキ、アレチヌスビトハギ、アキノノゲシ、タカサブロウ、イスタデ、ヤナギタデ、キツネノマゴ、オオジシバリ、アメリカネナシカズラ、アレチハナガサ2種、ススキ、エノコログサ3種、チカラシバ、カゼクサ、コブナグサ、イガクサ、ヒメクグ、ヤブマメ、マメアサガオ、ホシアサガオ、マルバルコウソウ、アメリカアサガオ、ヒガンバナ、ヤマハギ、**昆虫** 蝶(キタキチョウ、モンキチョウ、キタテハ、ウラナミシジミ、ウラギンシジミ、ヒメウラナミジャノメ、イチモンジセセリ、チャバネセセリ、ナミアゲハ)、蛾(ウンモンオオシロヒメシヤク、*ウスオエダシヤク)、バッタ類(ツチイナゴ、*セグロイナゴ、トノサマバッタ、マダラバッタ、ハラオカメコオロギ声、アオマツムシ声、マツムシ声、オオカマキリ)、チュウゴクアミガサハゴロモ産卵痕、ヒメジュウジナガカメムシ群、アカギカメムシ幼虫、トンボ(ウスバキトンボ、ヒメアカネ雄、アキアカネ産卵、ナツアカネ雄、*アジアイトトンボ)、甲虫(ナナホシテントウ多い、ヒメカミナリハムシ)、サトジガバチ、トクリバチ羽化後の巣、**蜘蛛** ジョロウグモ雌雄、シロカネイソウロウグモ、ハナグモ幼体、オスクロハエトリ、**鳥** スズメ、ハシブトガラス、メジロ、モズと声、コジュケイ声、カワウ、**その他** カナヘビ、茸(オオシロカラカサタケ)

*(観察会前に記録)

次回:11月14日(木) 午前9時30分 水資源機構・P前 雨天中止 参加費100円